

村内で出ている二酸化炭素量ってどのくらい？

とうかい環境村民会議では、「第2次東海村環境基本計画」(平成24～33年度)に基づき、地球温暖化対策を進めており、平成17年度を基準年として、平成33年度までに二酸化炭素の排出量を「25%削減すること」を目標として、さまざまな対策の検討等を行っています。計画の進行管理に当たっては、村内のどこからどのくらいの二酸化炭素が排出されているのかを把握するため、平成17年度から毎年、二酸化炭素排出量実態調査を行っています。

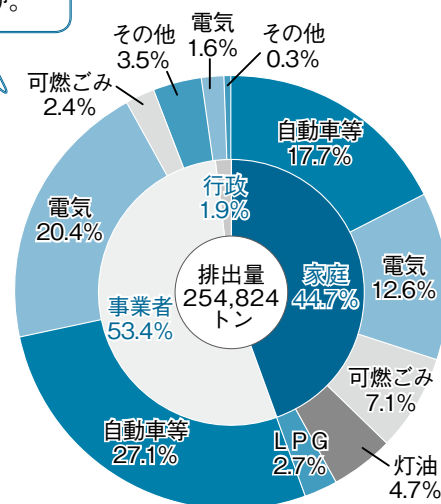
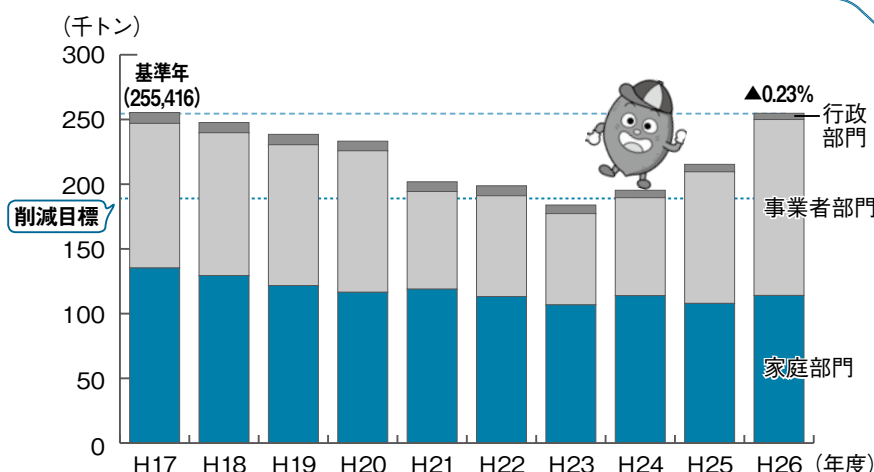
平成26年度は、震災からの復興で経済活動が活性化してきたことや、大規模な公共事業(東海中学校・中丸小学校・幼保連携施設の建設、舟石川近隣公園の整備等)が多かったこともあり、昨年度より増加しましたが、基準年比では0.23%の削減となっています。

【問い合わせ】環境政策課環境計画・緑化推進担当(☎282-1711 内線1454)

【二酸化炭素排出量の推移(左下図)と平成26年度の主体別・排出源別二酸化炭素排出割合(右下図)】

円グラフを見ると、家庭・事業者の自動車等使用(約45%)、電気使用(約33%)による二酸化炭素排出量が全体の約8割を占めています。事業者の電気使用は、事業を営む上では必要なもので、減らすには時間がかかります。一方、自動車の利用は、運転者の意識による部分が大きく関わります。エコドライブに努めるなど、この機会に自動車利用を見直し、できることから始めてみませんか。

内円…主体別排出割合
外円…排出源別排出割合
※各項目ごとに数値を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。



楽しくエコして
得しちゃおう！

生ごみで堆肥が作れる！そして、環境にも優しい！

家庭用生ごみ処理機器の購入費用の一部を補助します

家庭から排出される可燃ごみの約40パーセントは生ごみといわれています。生ごみ処理機器を使用すると、ごみの減量化や温室効果ガス(二酸化炭素)の削減に効果があるだけでなく、処理物を堆肥として利用できるメリットもあります。

- 電動生ごみ処理機器…生ごみを温風乾燥や微生物分解等で減量・消滅させる機器(堆肥化できるものもあり)
- コンポスト容器…土中の微生物の働きや発酵資材を使って、生ごみを堆肥に変えるための容器

対象▼村内に住所を有する世帯で、過去3年以内に本補助を受けていない方

補助金額▼購入価格の2分の1 ※電動生ごみ処理機器は1世帯1台(上限3万円)まで、コンポスト容器(電動以外の生ごみ処理機器)は1世帯2台まで(上限4,000円/台)です。

申し込み・問い合わせ▼購入前に、環境政策課環境保全担当(役場行政棟4階 ☎282-1711 内線1451)へ申し込みの上、整理券の交付を受けてください(予算額に達した時点で終了)。